| | |
|---|---|
| ◆活動団体 | 団体名：　ＮＰＯ法人浜田芸術文化のまちづくり推進協会<br>連絡先：TEL　0855 - 22 - 2709　メール：hisashi.seian@brown.plala.or.jp<br>ＵＲＬ： |
| ◆活動内容 | **事業項目〈新たな街道文化創出の事業〉**<br>１　「夢街道〝浜田城…江戸から明治へのみち〟トレイルルート観光案内パンフレット」（日本語・英語版）の編集・発行にって観光交流人口を拡大し、地方創生の一環として地域再生に寄与することを目的として次の活動をした。<br>①　インバウンド、海外クルーズ船入港等による外国人観光客の受入対策として「トレイルルー観光ト案内パンフレット（日本語・英語版）を発行した。<br>②　日本語・英語版観光案内パンフレットの配付先<br>ア．浜田市観光交硫課　→　外国籍クルーズ船乗客等及び公共施設、観光施設等へ配付　→2,000 部（完配）<br>イ．NPO 法人浜田芸術文化のまちづくり推進協会　→　一般市民、観光客等へ配布　→1,000 部（ほぼ完配）<br><br>２　浜田藩開府 400 年記念事業協賛事業として、次の事業を企画した。<br>→平成 30・31 年度継続事業<br>①　浜田藩初代藩主古田重治候関連事業「武将茶人古田織部と重治」の研究<br>②　『古田重治の遺した茶の湯文化の復活』の事業化に関する研究 |
| Ｈ３０年度 | ☆　「夢街道〝浜田城…江から明治へのみち〟」の<br>日本語・英語版観光案内パンフレット<br> <br><br>（注）各界から大好評を得て 3,000 部を完配した。今後の増刷を検討の予定。 |

事業項目「２　浜田藩開府 400 年記念協賛事業」

新たな街道文化創出の事業として、次の事業を新規企画した。

平成 30 年度から「オリジナルなまちづくり」を目指し、浜田市の自然、文化、歴史、産業など足下にある地域資源を掘り起こし〝個性あるまちづくり〟として、次の研究課題を設定し活動した。　→平成 30・31 年度継続事業

①　浜田藩初代藩主古田重治候関連事業『武将茶人古田織部と重治』の研究

②　『古田重治の遺した茶の湯文化の復活』の事業化研究

３　平成 31 年度から継続始業として取り組む事業

①　「〝浜田城つばきと織部流茶の湯文化〟の復活」

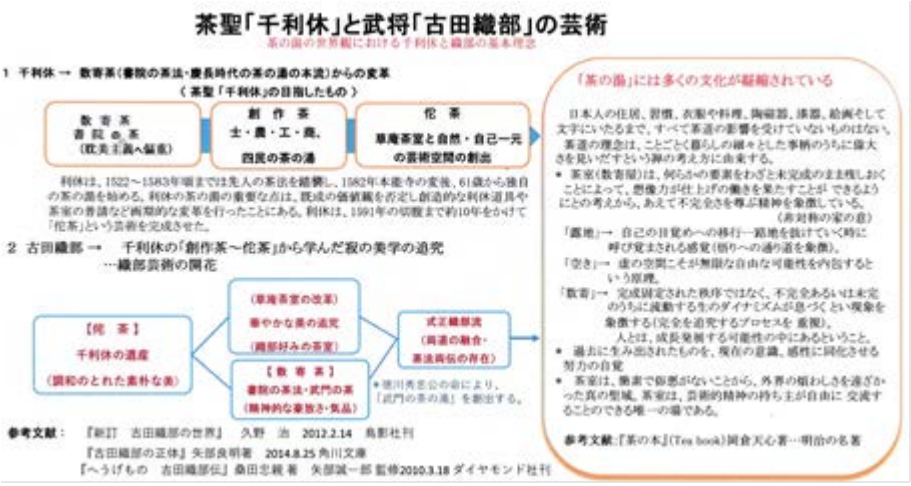
＊織部流・式正茶法による大茶会の開催（浜田城御便殿）

＊御便殿庭園の野点、広域の「茶の湯文化」の交流会

＊創出作品「いわみ織部焼」の後悔展示」

②「浜田城固有種つばき名花」の里帰り移植

Ｈ３０年度



Ｈ３０年度

## 古 田 織 部 関 係 年 譜

| | 西 暦 | 年 号 | 豊臣秀吉 | 徳川家康 | 千利休 | 古田織部 | 古田重治 | 記 事 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 室町時代 | 1544 | 天文13 | 9歳 | 3歳 | 23歳 | 1歳 | — | 織部、岐阜県本巣市山口で生誕。 |
| | 1570 | 元亀元年 | 35歳 | 29歳 | 49歳 | 27歳 | — | 千利休が信長に茶の湯をもって仕える。信長・家康軍、姉川の合戦で大勝する。 |
| | 1573 | 天正元年 | 38歳 | 32歳 | 52歳 | 30歳 | — | 織部は義父・重安所領の山城国西の岡万石領を継承する。 |
| 安土桃山時代 | 1578 | 天正6年 | 43歳 | 37歳 | 57歳 | 35歳 | 1歳 | 織部の義父・重安没す(61歳) |
| | 1581 | 天正9年 | 46歳 | 40歳 | 60歳 | 38歳 | 4歳 | 織部、千利休に付き茶の湯を学ぶ。古田重治、岐阜県本巣市山口で生誕。 |
| | 1585 | 天正13年 | 50歳 | 44歳 | 64歳 | 42歳 | 8歳 | 秀吉関白になる。織部正3万5千石の大名になる。織部実父重定3千石 |
| | 1590 | 天正18年 | 55歳 | 49歳 | 69歳 | 47歳 | 13歳 | 秀吉関東征伐、小田原城攻め、織部従軍、利休と武蔵鐙の文を交す。 |
| | 1591 | 天正19年 | 56歳 | 50歳 | 70歳 | 48歳 | 14歳 | 千利休、秀吉より切腹させられる。2月20日、享年70歳 |
| | 1598 | 慶長3年 | 63歳 | 57歳 | — | 55歳 | 21歳 | 8月、秀吉没す。織部の実父重定、秀吉に殉死する。織部隠居。 |
| | 1600 | 慶長5年 | 秀頼8歳 | 59歳 | — | 57歳 | 23歳 | 石田三成挙兵、関ヶ原の合戦。東軍・家康側大勝。織部加増1万石。 |
| 江戸時代 | 1610 | 慶長15年 | — | 69歳 | — | 67歳 | 33歳 | 重治、伊勢国松坂藩2代藩主 28歳 1605.5.1徳川秀忠第二代将軍。織部、秀忠公に台子茶の湯伝授。将軍の茶道指南役となる。 |
| | 1615 | 元和元年 | 秀頼23歳 | 74歳 | — | 72歳 | 38歳 | 大坂夏の陣、大坂城落城。古田織部・世嗣ほか切腹、直系一族断家。徳川家康、1616.4.17没 75歳 |
| | 1619 | 元和5年 | — | — | — | — | 42歳 | 古田重治、大坂の陣で功を挙げ石見国浜田藩へ移封。 |

## 織部流の系譜

これまでの織部流の系譜はつぎの如くである。

古田織部正・重然――二代、重綱――三代、[illegible]――四代、[illegible]――五代、[illegible]――六代、[illegible]――七代、[illegible]――八代、[illegible]――九代、[illegible]――十代、[illegible]――十一代、[illegible]――十二代、[illegible]――十三代、[illegible]――十四代、[illegible]――十五代、[illegible]――十六代、[illegible]――十七代、[illegible]――十八代、[illegible]

さて、織部流の本道であるが、織部流には秘伝書流の「草庵の茶」と、武家茶道といわれる「書院および広間の茶」の両伝がある。

前者はいわゆる侘び茶法は千利休から学びうけた侘び茶の点前であり、草庵の茶法では両者そのものは、多少の違いがあるというものの、それ自体は千利休流と同じである。

後述の古田織部の茶書に「織部流さあく」があり、その冒頭に利休の伝とあることを[illegible]、千利休から伝授された「草庵の茶」は、織部は織部なりの侘び茶法として、伝授されてきたということである。

古田織部が、織部流として天下を風靡した桃山時代の茶は、織部みずからが新しく創案した「武家茶道」である。

## 古田重治は なぜ「織部流五世」を継いだのか

### 古田一族の「年譜」と「系図」から見えてくるもの

（織部流を継いだ古田重続とその後）

① 1615(元和元) 年に起きた織部事件によって、織部と嗣子の切腹とともに直系の一族はことごとく自刃して果てた。そして、外様大名豊後国岡藩中川久盛（禄高7万2千石）に対して、譴責の処分が下された。（古田織部との関わり…中川家の家老古田家の存在）

② 織部流を継いだ岡藩中川家の家老古田重続は１９９３年に戦死し、織部事件当時は嗣子の重則から養子の重直へ継いでいた。譴責の処分といえども外様大名岡藩に取っては厳しく、将軍家の威光は怖ろしい。岡藩家老の古田重直は織部流第４世を継いでいたが隠居を命じられ、以後の織部流の継承は許されなかった。将来に禍根を残さない徹底した措置であった。豊後国岡藩古田家は、織部事件をもって幕を閉じ、以後２６０年間、織部流の活動は封印されてきたといわれている。

③ 岡藩においては、藩士の間で織部流の茶法が細々と続いてきたとされているが、正統が継いできたのかどうか疑問が残る。

その後、明治３１(1898)年に 東京で茶道・温知会が起こされた。

参考文献：『新訂 古田織部の世界』久野　治著2012.2.14　鳥影社刊
『茶人の頂点に立った戦国武将　へうげものの真実』
諏訪勝則 著　2016.1.25 中央公論新社 刊

### 古田重治の出自から考えられること

（重治の系譜と織部事件後の動き）

① 古田重治は、美濃国本巣郡山口城主古田重定の長男重則の三男として生れる。城主重定の次男は古田織部で、重治の叔父に当たる。

美濃国古田家は、国守土岐氏の文芸諸分野の活動の影響を受け、常に文武両道の素養を積み教養高く相当の文化人であった。織部や重治にも その素質が伝わったと考えられる。茶の湯の素養も教養・芸術の一端として 受け継ぎ、武将ながら文人として和平を願う穏健な性格であったという。

② 1615年、重治は大坂夏の陣においては戦功を立て、徳川家康は、天下一の律義者として重治を称えている。しかし重治の叔父織部が、大坂方へ内通したとして家康から切腹を命じられ織部と直系一族ことごとく自刃し断家した。

③ 1619年、重治は伊勢国松坂藩(5万７千石)から浜田藩(5万5千石)へ移封され、翌年から浜田城の築城と城下町の整備を進めた。1623年、浜田城と城下町の整備完了を見届けた重治は、若干17歳の養子重恒に家督を譲って隠居(46歳)し江戸へ直行している。重治は何故に江戸行きを急いだのか…？

④ 織部に「武門の茶法」の創始を命じたのは、最近の古文書の解読から第二代将軍徳川秀忠公と判明した。温和な性格の秀忠公は、織部の創始した武門の茶法の継続と実践を望んで古田重治に織部流５世の継承を命じたのではないか。浜田藩の礎を築いた重治は、早々と隠居を申し出て大膳太夫となって茶の湯の世界に戻ったと推測される。浜田の無量院極楽寺には、徳川秀忠公の恩顧に報いるため藩主が奉じた秀忠公の拝墓と金箔厨子入大型位牌が遺る。

## 古田織部正重然と古田重治の系図

NＰＯ法人
浜田芸術文化のまちづくり推進協会

（注）　古田織部とその世嗣が徳川家康から切腹を命じられ、家財没収、家名断絶によって大茶人織部の系譜は葬られた。為に、織部の武将又は茶人としての事績は多くの史料とともに抹殺されたことにより、古田織部の史料に登場する人物や系譜には混同や誤りが多いとされる。本系譜は諸資料により正確を期して作成しているが、これを以て 確実であるとは判断し難い。

【 主な参考文献：『新訂　古田織部の世界』著者・久野治　（ORIBE 研究家・岐阜県多治見市）2012.2.14　鳥影社刊 】

4　課題・反省点

夢街道ルネサンス認定地区の活動について、私ども受入団体として地方創生事業の一つとして、地域再生のために取り組んでいるところです。しかしながら、市民団体と地元自治体との一体的な取り組みは進んでおりません。

夢街道ルネサンス認定地区の活動は、受入れ団体のみが活動するものではなく、自治体と市民が協力しながら「新たな街道文化を創出する」という目的に向かって活動してこそ地域が活性化できるものと理解しております。

然るに、自治体の現状は国との取り次ぎに終わっていて、私ども活動団体そのものは未だに地元行政の内部に認知されていません。当 NPO 法人の組織も事業成果も情報共有されず、自治体における「まちづくり」に関する会議にも案内は一切ありません。

どうすれば地方自治体は動くのか……石見地区の自治体に共通し、かつ受入団体としてはどうにもできない困難な課題です。